

証券市場新聞

1 第179号

日経平均株価

2万1250円09銭

▲187円11銭(前日比)

TOPIX

1554.25

▲16.70(前日比)

2019
5/20
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



新興市場の好業績株狙う

輸出系下期急回復に懐疑的

3月期企業の決算発表が一巡した。大手調査機関が9日までに発表した企業の20年3月期予想の集計では、通期経常利益で前期比2・2%増。これを半期に分けると、上期の前年同期比9・1%減に対して、下期は17・2%増と急回復を見込む。ただ、トランプ政権による対中追加関税で米中貿易摩擦の不透明感が増し、下期回復シナリオに懐疑的な見方も高まっている。そのような中で独自路線で成長が見込まれる新興銘柄を物色のターゲットに絞りたい。

独自路線の成長企業

20年3月期の見込系に関しては総じて通しについて、輸出一慎重で、電子部品の

も、中国は先端分野への投資を惜しまないので、これに絡む需要は高まる」と過度に悲観していない経営者も少なくない。

一方、内需に関しては10月の消費増税後は節約志向の高まりが懸念される。このようななか、方向感が明確になるまでは、独自分野で成長が見込まれる新興銘柄の中から好業績銘柄を絞って注目してみたい。

独自路線で成長する銘柄は？

下期回復を期待する経営者が多い。既に生産拠点を他のアジア圏へシフトしている企業が多い。米国が対中強硬路線を堅持して

グリンズ(3150) 19年3月の前期比37・5%の営業増益に続き、20年3月期も前期比14・2%営業増益見込む。卒FIT案件に絡む需要取り込み期待
メドピア(6095) 医師向け情報サービス
イトを運営。
19年9月の第2四半期累計(10年10月~19年3月)は連結営業利益で7・8%増の3億3

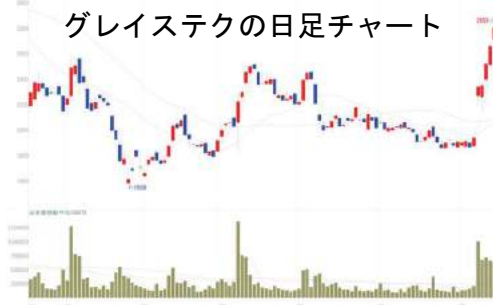
000万円を計上、通期46・8%増の5億4000万円は上ブレ期待。
テリロジー(3356) 情報セキュリティ製品を展開。19年3月の47・0%営業増益に続き、20年3月期も14・7%営業増益見込む。株価は底打ちからの反転に期待。
東映アニメーション(4816) 「ドラゴンボール」関連拡大継続、20年3月期はワンピース映画位新作も寄与。

日経平均日足チャート



今週の動意銘柄

グレイステクはS高
20年3月期30%営業増益



6%増)、営業利益7億5000万円(同30.3%増)と大幅増収増益を見込んだ。マニュアル制作と「e-manual」の導入促進

週明け13日、グレイステク(6541)がストップ高。20年3月期は売上高19億8400万円(前期比24.6%増)、営業利益7億5000万円(同30.3%増)と大幅増収増益を見込んだ。マニュアル制作と「e-manual」の導入促進

とあわせ「GRACE EVISIONR」を精力的に販売。社内リソースの不足に閉じては業務提携や販売代理店契約、M&Aなどを模索して、業容拡大を図る。

ソフトバンクG続落

13日、ソフトバンクグループ(9984)が続落。投資

ブレインP大幅増額

13日、ブレインパッド(3655)がストップ高で年初

14日、イーレックス(9517)が急伸、年初来高値を更新した。20年3月期の業績について、連結売上高950億4200円(前期比44.4%増)、営業利益で77億2000万円(同64.2%増)と大幅な増益を見込んだ。高圧分野では、3月末に設立した、東京電力エナジーパートナーとの共同出資会社「エバグリーン・マーケット

「イーレックス」を主体として、全国の特高圧・高圧の顧客を対象に、省エネ・省コストに資する付加価値サービスや再エネ電源による環境価値などを付加したサービスなどを提供していく。

ウイルG値下りトップ

14日、ウイルグループ(6089)が東証1部値下がり率トップ。20年3期の連結業績は営業

イーレックス64%営業増益

利益40億円と発表。国際会計基準IFRS適用で、営業利益は7億円程度押し上げているため、実質で市場コンセンサスを下回ったとして失望売りを浴びた。

大真空ストップ高

14日、大真空(962)がストップ高。20年3月期の業績について連結売上高で320億円(前期比12.4%増)、営業利益で10億円(同21.3倍)と大幅な増益を見込んだ。

正直いいさんの株で大判小判

17日の東京市場は反発しました。前日の米国株市場でダウはじめ主要株価指数が大幅に上昇した流れを引き継ぎ、買い優勢の展開となりました。為替が円安に振れていることもフォローになり、高寄りの後も先物買いを交えて上げ幅を広げました。前引け328円高後に先物を通じて売りに押しされる場面もありません。基本的には突っ込み買いで対処し、たいところでは日ホスピス(7061)やイボキン(5699)、メキシコパクト(6067)6値更新、RPAHD(6572)も上値を追い上げました。主力株は買戻し主体の動きで上値は限られると見ています。米中

限られると見ています。米中
通商交渉に何らかの進展がない限り、引き続き上昇基調継続の強い中小型株で値幅を狙うしかないでしょう。

花咲翁

「Ark. 3Gシリーズ」などの差別化製品を展開する。

ファイバーG上方修正

15日、ファイバーゲート(9450)が一時ストップ高に買われ、年初来高値を更新。19年6月期の業

「Ark. 3Gシリーズ」などの差別化製品を展開する。

ファイバーG上方修正

15日、ファイバーゲート(9450)が一時ストップ高に買われ、年初来高値を更新。19年6月期の業

績予想について、連結売上高で50億9700万円から54億円(前期比35.8%増)へ、営業利益で7億5600万円から9億900万円(同62.3%増)へ上方修正した。新規契約が増加した。

図書印S高で新値追

凸版印の株式交換でサヤ寄せ

15日、図書印刷(7913)が連日

日産28%営業減益

のストッブ高で新値を追った。株式交換により凸版印刷(7911)との株式交換で完全子会社になると発表したことが引き続き買い手掛かりになった。交換比率は凸版1に対して同社0.8株で、理論株価にサヤ寄せするかたちで水準を切り上げた。

15日、日産自動車(7201)が急落、連日で年初来安値を更新した。20年3期の連結業績で営業利益2300億円(前期比27.7%減)を予想。市場コンセンサスの4200億円強を大幅に下回ったことで失望売りを浴びた。規

制対応、商品性向上へのコスト負担と原材料

Ubicom2 ケタ増収益

19.0%増と2ケタ増収増益を見込んだ

16日、Ubicomホールディングス(3937)がストッブ高。20年3月期の業績について、連結売上高で40億2100万円(前期比13.1%増)、営業利益6億7100万円(同

料価格高騰が収益を圧迫する。

だ。次世代型ソリューション「3A」開発で培った技術を搭載した独自エンジンをアセット化、戦略的ドメインのリーディングカンパニーへの導入実績を皮切りに、サブスクリプションモデルを推進していく。

チェンジは稀薄化

16日、チェンジ(3962)がスト

ップで年初来安値更新。160万株の公募増資と45万株の売出し、30万7500株のオーバーアロ

ットメントによる売実を達成すると発表したことを受け、株式価値の希薄化と需給悪化を懸念した売りが殺到した。稀薄化率は11.4%。

カルタ営業益2.5倍

16日、CARDT HOLDING(3688)が続騰

し、年初来高値更新。19年12月期第2四半期累計の連結決算で、営業利益20億9500万円(前年同期比2.5倍)

へ利益が急拡大した。アドプラットフォーラムを中心に好調が続くなか、サイバー・コミュニケーションズの子会社化効果が加わった。通期計画の25億円に対する進捗率は85.5%に達し、大幅な収益上振れが期待された。

転ばぬ先のテクニカル

個別銘柄対処

先週の東京株式市場は前週に続き連敗スタートとなりました。14日には一時2万751円まで下げる局面がありましたが、終値ベースでは2万1000円を守りました。昨年は1月～3月と10月～12月の二度の急落がありましたが、2月半ばと10月下旬に2万1000円近辺で小休止しました。今回も同様に2万1000円近辺がひとまず押し目ポイントとして意識されているようです。

週足は陽線形成となりましたが、前週比では下を取りました。週末には5日線を回復してきましたので、今週はリバウンド基調からのスタートが予測されますが、2万1575円近辺の60日線、或いは2万1800円近辺の20日線が戻りの目処ではないかと考えます。指数は戻り売り対処ですが、個別では狙える足型が出始めました。メディア

シーク(4824)に注目しています。

日々勇太郎



ソニー自己株買と提携

週末17日、ソニー(6758)が急伸。自己株式取得枠の設定を発表。上限600万株(発行済株式の4.8%)。または2000億円、取得期間は5月17日～20年3月31日まで。加えて、米マイクロソフトとクラウドゲームなどで

戦略的提携を締結した。クラウドを利用して、ゲームやコンテンツをオンライン配信、画像センサー半導体の共同開発にも取り組むという。

すてきな粉飾で強制捜査

17日、すてきなグループ(8089)連続ストッブ

安。粉飾決算の疑いで横浜地検などが捜索したと伝わったこととで、処分売りが止まれない。15年3月期決算で不動産取引を巡り架空売り上げを計上し疑いが持たれており、会社側も前日取引終了後、有価証券報告書虚偽記載の容疑で証券取引等監視委員会と横浜地方検察庁に強制調査されたと発表した。

今週の動意銘柄

～決算情報～

アズワン

増収2ケタ超増益で最高業績 品揃え拡大とAIなど活用し効率化

アズワン（7476）は20年3月期の連結業績について、売上高715億5000万円（前期比7.2%増）、営業利益88億5000万円（同17.0%増）、最終利益62億5000万円（同18.7%増）と前期に続いて増収2ケタ超の増益で連続最高業績更新を見込んだ。年間配当も167円（前期141円）へ前期に続いて増配を予定している。

医療用品総合カタログをはじめ各種専門カタログを更新するほか、インターネットサイト「AXEL」の品揃えを拡大、電子カタログをユーザー購買システムに接続する集中購買接続先やネット通販業者の開拓と既存取引を拡充する。日系を含めた海外拠点ディーラーへの販売支援と海外ユーザーへの販売を促進する一方、AIや仮想ロボットなどを活用して効率化を進めることで収益力を強化する。

大和ハウス工業

商業・事業施設好調続く 20年3月期も増収増益で最高業績

大和ハウス工業（1925）は20年3月期の連結業績について、売上高4兆2500億円（前期比2.6%増）、営業利益3780億円（同1.6%増）、最終利益2520億円（同6.1%増）と増収増益で連続最高業績更新を見込んだ。年間配当も115円（前期114円）へ前期に続いて増配を予定している。

戸建住宅や賃貸住宅は厳しく見積もったが、商業・事業施設が好調を持続、業績をけん引する見通しで「首都圏を中心にニーズが強い」（芳井敬一社長）として今期の設備投資額3400億円のうち1415億円を事業施設、815億円を商業施設に全体の7割弱を充当する。建築基準不適合問題について新中期計画のなかでもガバナンス体制の再整備を重要課題に掲げ「秋口にも抜本的な再発防止策とガバナンスの強化策を公表する」（同）とした。

あじかん

増収2ケタ超の営業増益 ヘルスフードなど戦略投資も実施

あじかん（2907）の20年3月期は連結売上高465億円（前期比4.8%増）、営業利益11億5000万円（同15.3%増）、純利益8億円（同13.1%減）を見込んでいる。期末一括配当15円を据え置いた。

新製品・リニューアル品を軸とした新規開拓・深耕拡大への取組みを推進。今後はつくば工場の安定稼働を推進するとともに成長性の高い業態を標的とした商品開発、ヘルスフード事業の拡大、海外輸出や中国国内販売の強化を行うことで、収益拡大を図る方針。利益面では利益構造の更なる改善を指向し、製造原価の低減や経営ロスコストの削減などの施策を進める予定ながら、人件費や物流費の増加に加えてヘルスフード事業をはじめとした戦略的な経費の執行を予定しており、純利益では若干の減益を見込んでいる。

グルメ杵屋

20年3月期35%営業増益 中計で連結売上高447億円目指す

グルメ杵屋（9850）の20年3月期は連結売上高411億9800万円（前期比0.4%増）、営業利益9億7900万円（同34.6%増）、純利益4億8100万円（同45.6%増）と前期に続いて増収で大幅な増益を見込んでいる。

同時に中期経営計画を発表。ホールディングス機能強化によるグループ収益力の強化や投資案件への積極的な取り組み、グローバル展開では中国、アセアン、北中米に主軸を置いたレストラン事業のFC展開に加え、機内食や食品製造事業の販路を拡大。海外からの人材の受入体制の強化や先進技術を活用した業務プロセスの再構築を行い職場環境の改善・改革を重点施策として推進し、目標最終年度である22年3月期に連結売上高447億2100万円を目指している。

～決算情報～

立花エレテック

前19年3月期は最高業績 FAシステムと施設事業が牽引

立花エレテック（8159）の19年3月期は売上高1820億円（前の期比2.6%増）、営業利益65億9600万円（同3.1%増）、純利益49億600万円（同8.1%増）と過去最高業績を達成した。大阪取引所での決算発表の席上、**渡邊武雄社長（写真）**は「FAシステム事業と施設事業が牽引、CEATEC JAPANなど大規模展示会や研修による人材育成などの成果がでていた」とした。米中貿易摩擦の影響で半導体デバイス事業では中国向けの動向が不透明なことから20年3月期は売上高1830億円（前期比0.1%増）、営業利益67億2000万円（同1.9%増）、純利益48億6000万円（同0.9%減）と慎重な見通しをたてている。



イボキン

1Q84%の大幅営業増益 再生資源はじめ全事業伸びる

イボキン（5699）の19年12月期第1四半期の連結決算は、売上高17億3300万円（前年同期比3.3%減）、営業利益2億1400万円（同83.4%増）、最終利益1億4700万円（同84.5%増）と減収ながら利益が急拡大した。

産業廃棄物処理受託と再生資源販売の環境事業が販路拡大により、2ケタ増収で利益が倍増。解体事業も大型案件5件を含め完工件数は59件に増え、増収で9割近い大幅増益で着地した。金属事業も鉄スクラップ価格が下落したものの、鉄鋼メーカーの生産増に伴い回復、2ケタ超の増収増益を確保している。

通期は期初予想を据え置いたが、通期計画の営業利益4億500万円（前期比44.4%増）、に対する第1四半期の進捗率は52.8%に達する。期末一括配当を30円に増配。

英和

今3月期も増収益見込む 高付加価値営業強化の成果表面化

英和（9857）の20年3月期は連結売上高380億円（前期比1.6%増）、営業利益15億円（同2.0%増）、純利益10億円（同6.3%増）と19年3月期の売上高373億9400万円（前の期比8.8%増）、営業利益14億7000万円（同38.2%増）、純利益9億4100万円（同28.3%増）の大幅増収増益に続き、増収増益を見込んでいる。

官公庁向けで社会インフラ設備の強化や更新につながる投資需要を取込むほか、プラント・エンジニアリング、機械製造業、化学品製造業、船用機器製造業、電力会社を中心に設備投資が高水準で推移すると見ている。これに加えて、高付加価値営業の強化に取組んだ成果が表面化。今後伸長が見込まれるIoTを始めとする製造現場での生産性向上への取組みを強化する。

フジコー

20年3月期は黒字転換へ 効率化や新製品でコスト競争力強化

フジコー（3515）の20年3月期は連結売上高93億円（前期比5.2%増）、営業損益1億円の黒字（前期7300万円の赤字）、最終損益1億円の黒字（同6億1900万円の赤字）と黒字転換を見込んでいる。

高品質・高機能の不織布・フェルトの技術開発を推進、収益力の改善対策として、一段の生産体制の効率化や、新製品の開発によりコスト競争力の強化を図る。海外分野では、グローバルな運営体制のもと、アジア、欧州、米国などで環境・エネルギー資材や工業資材を中心に積極的な事業展開を図るとともに、活動基盤を拡大し、より強固な事業基盤を構築し、海外売上高比率の向上を目指していく。

ISO14001を通じ、地球環境保全に取り組み、環境に配慮した事業活動も推進する。

「トロールズ」記念イベント つばきファクトリーを迎え開催!



「トロールズ」大人気記念イベント開催

USJでは3月1日から6月28日まで、第1弾の「ボス・ベイビー」に続いて、「ドリームワークス・アニメーションとユニバーサル・ピクチャーズがタッグを組んだ世界的な大ヒット

USJ

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)は、5月15日に「トロールズ」大人気記念イベントとして「トロールズ」を

「トロールズ」大人気記念イベント開催。今回は、トロールズの人気キャラクター、ポピーとブランチがやってきている。今回の記念イベントは二人のパーク滞在中に、日本の「子ども」たちにも、カラフルでかわいいトロールズとの「キラキラでハッピー」な思い出をたくさん届けるべく開催した。15日午後1時から、サンフランシスコ・エリア特設ステージで行われた特別イベントには、とっても元気で歌と踊りが大好きなヒロインのポピーとまじめでちよつと内気なブランチが登場し、特別招待の子どもゲストに笑顔で迎えられた。続いて、TVアニメのオープニング&エンディング・ソングをカバーする人気女性アイドルグループの「つばきファクトリー」がサプライズで登場。「つばきファクトリー」は、「トロールズ」の仲間たちと一緒に、世界中のインフルエンサーにカバーされた元気いっぱいなTVアニメエンディングソング「もうサイコー!」を披露した。

「トロールズ」大人気記念イベント開催。今回は、トロールズの人気キャラクター、ポピーとブランチがやってきている。今回の記念イベントは二人のパーク滞在中に、日本の「子ども」たちにも、カラフルでかわいいトロールズとの「キラキラでハッピー」な思い出をたくさん届けるべく開催した。15日午後1時から、サンフランシスコ・エリア特設ステージで行われた特別イベントには、とっても元気で歌と踊りが大好きなヒロインのポピーとまじめでちよつと内気なブランチが登場し、特別招待の子どもゲストに笑顔で迎えられた。続いて、TVアニメのオープニング&エンディング・ソングをカバーする人気女性アイドルグループの「つばきファクトリー」がサプライズで登場。「つばきファクトリー」は、「トロールズ」の仲間たちと一緒に、世界中のインフルエンサーにカバーされた元気いっぱいなTVアニメエンディングソング「もうサイコー!」を披露した。

購読会員募集中!

証券市場新聞では、購読会員を募集しています。

高野恭壽の
株式情報 **これでどや!!**

大阪で600人越えの集客を記録、アンケート調査で「是非聞きたい講師」全国第1位
人気株式評論家 高野恭壽の株式マガジン!

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

証券市場新聞 公式メールマガジン

優良銘柄に加えて新興銘柄のタイムリーな限定情報が満載!

<https://www.mag2.com/m/0001678061.html>

潮流

「令和」ラリー開始が近い

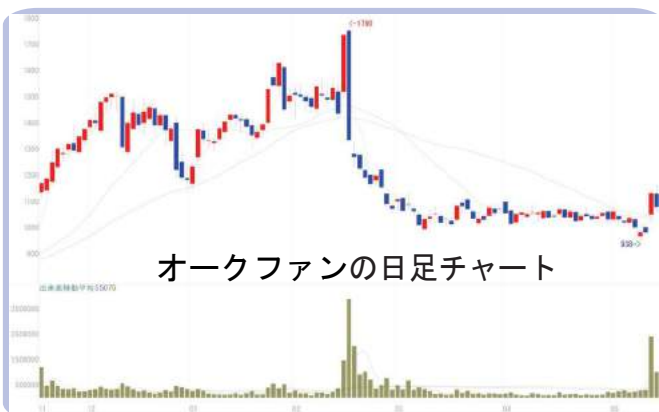
先行き不透明も不景気の株高へ



5月15日の日経平均は8日ぶりに反発した。令和に入って初めての上昇だ。前日14日安値は2万751円まで下げ、10連休前から6日間で1519円（6.8%）の急落となった。今後の注目点は5月9日の終値（2万1402円13銭）、TOPIXは1550.71ポイントを上回るかだ。

5月9日終値は新値3本足陽転値であり、それを上抜くと上昇トレンド入りとなる。米国株式市場では5月1日にS&P500種が一時2954ポイントまで上昇し、2018年9月に付けた過去最高値を上回った。トランプ大統領が中国への高関税による締め付けを発表したことで米株式市場は急落したが、テクニカル的なトレンドは上昇局面を維持している。S&P500種は5月13日の安値である2801ポイントで調整を終えた可能性が高い。しかし、米中貿易戦争がさらに悪化し、株式市場の下値模索が続く場合には2722ポイント付近が下値メドとなる。

一方、中国の株式市場を見る限り米中貿易戦争が遠からず沈静化に向かう可能性が高いことを示唆しているように映る。上海総合指数は5月10日の取引時間中に2838ポイントの安値を付けた後、急上昇して終えた。16日には



5月7日の高値を越え、上昇基調を強めている。この動きを見るとS&P500種は底入れしたと考えて良さそうだ。米国株式市場は上昇トレンドに戻る可能性があり、初の3000ポイント乗せを目指さ

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

約1万人の参加者の中



岡山 憲史氏（株式会
社マーケットバンク代
表取締役）のプロフイ
ール

1999年2月日本初
の資産運用コンテスト「第
一回S1グランプリ」にて

日本国内に目を向けると、5月13日に内閣府が、景気動向指数の基調判断を6年2カ月ぶりに「悪化」に引き下げた。20日に発表される1-3月期GDP速報値も低調なものになりそう。これら経済指標の悪化を受けて、景気対策や10月の消費増税の是非を巡る議論がよいよ活発になる。その様な中で夏の衆参ダブル選挙も現実味を帯びてきそう。6月28日から日本で開催されるサミットは米中首脳会談や安倍総理が消費増税の見送りや憲法改正を国民に問うために解散を断行するか、非常に重要なサミットとなる。加熱する米中貿易戦争といった先行きの不透明感に係らず、「令和」ラリー開始が近いと思われる。それは過剰流動性の中で政府が新たに景気対策を実行する上で起こる「不景気の株高」となるだろう。

潮流銘柄はオークファン（3674）、自律制御システム研究所（6232）、グレイステクノロジー（6541）。

過剰流動性のなか景気対策

銘柄次第で天国と地獄

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



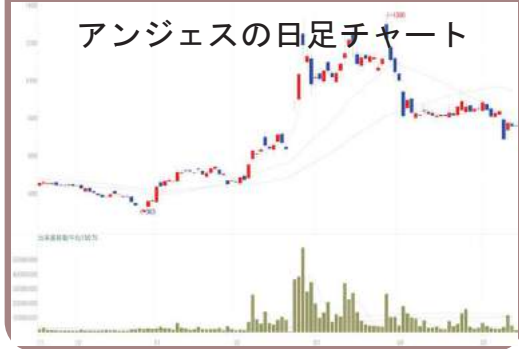
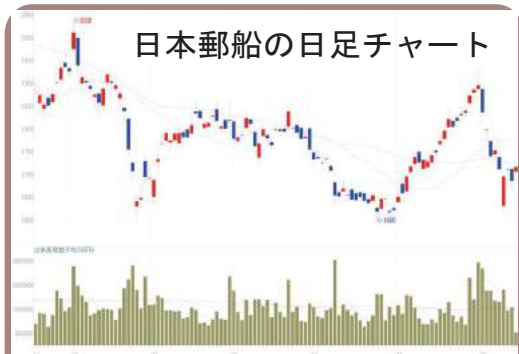
高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

5月第3週の東京市場も上値の重い動きになりました。15日は下値に対する抵抗力の強さや14日の米国株式の反発をみて外需系銘柄などに買い戻しの動きが強まり、2万1200円手前まで日経平均は回復し、令和初のプラス引けになりました。しかし、戻したものの上値に対する重さは残っており、好決算銘柄が部分物色されて値を飛ばす動きや業績悪で逆に大幅に値を消す銘柄もみられるなど、銘柄によっては天国と地獄を味わう動きもあいかわらず続いています。

ある程度は落ち着きを取り戻しているものの、米中通商交渉は依然として不透明感が高いことから、今週も積極的に上値を追えない状況は続きそうです。物色については、好決算見通しで買われた後、値を消している銘柄の選別買いを進める一方で、内需系の中で物色される銘柄も狙う姿勢が必要です。そうした中で日本郵船(9101)や商船三井(9104)など大手海運株の下落したところを拾うことをお勧めしています。まだ戻りが鈍いものの、押し目買い姿勢でいいとみています。前回、この欄で紹介しました三井金属(5706)は戻りは鈍いものの、下値抵抗力が強く上値指向を残しており、引き続き注目していきます。

好決算の選別買いと内需

アンジェス(4563)は「コラテジェン」の発売が延期されるのが伝わり、14日にストップ安まで売られました。この狼狽売りは誤った考え方です。大体、今期の見通しには「コラテジェン」の売り上げを計算に遅れて発表していません。発売は遅れても認可されたことに変わりはなく、そこまで売られたことは完全に過剰反応と言わざるを得ません。認可前の水準まで売られるいわれはないのですから、688円以下は断じて悲観的になる必要のない水準といえます。15日には戻したのですが、今回の戻りの限界は800円台替わりが限界ではないかとみています。その後、800円前後で再びもみあつて、好材料を待つて上値を追うとみていきます。



高野恭壽の株式市場情報
れどやー!!
https://marketpress.jp/
kabu-takano/
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

～交通事故は他人事でない～

大型

連休明け後も死亡事故につながる不幸な交通事故が相次いだ。事故現場ごとに状況が異なり、その原因は様々だが、基本的にはドライバーの不注意が一番の問題。筆者も運転中に一歩間違えれば事故につながる状況に何度か遭遇したが、その時は疲れていたとか、待ち合わせ時間に間に合わずためにスピードを出し過ぎ

ていたとか、自分自身の気の緩みがあることが多く。自動ブレーキに助けられたこともあったが、この先、安全性能が更に進化しても、それを100%信頼するのは危険。やはりドライバーが常に危機意識を持って行動することが必要だ。

最近では自動車だけでなく、自転車絡み事故も多い。免許がなくても気軽に乗れる半面、信号を無視するなど無謀な運転も少なくない。兵庫県を皮切りに全国の自治体で自転車保険の加入義務化が広がっているのは、それだけ自転車事故が深刻化している証拠でもある。筆者も朝の通勤時に自宅から駅への移動を徒歩に切り替えたが、数分早く起きるだけで気持ちに余裕がでてきた。急がば回れではないが、何事も慌てず余裕を持って行動したい。



New product

カプコン 世界に「モンハン現象」再び
超大型拡張コンテンツ9月6日投入！



カプコン (9697) は、グローバル出荷本数1200万本を達成したPS4、Xbox One、PC向けゲーム「モンスターハンターワールド：アイスボーン」の超大型拡張コンテンツ「モンスターハンターワールド：アイスボーン」を、9月6日に投入する。

この拡張コンテンツは好評を博した世界観やゲーム性はそのままに、さまざまな新要素を追加し、「ワールド」のエンディング後から始まる、さらなるストーリーが展開される。前作を未プレイの方にも楽しめるべく、「ワールド」とセットにした「モンスターハンターワールド：アイスボーン マスターエディション」の発売も予定している。

薬膳料理番組を提供

日本トリム

電解水素水で胃腸症状改善

薬膳の匠 追立久夫氏さんと養生薬膳アドバイザー おちあやこさん



4月から朝日放送で毎週木曜23時15分〜23時22分に放送しているテレビ番組「これがYAKUZO ENJOY プロも驚く！追立薬膳料理」(関西地区のみ)の放

送)を5月〜8月は、日本トリム(6788)が提供している。薬膳の匠 追立久夫氏が家庭でも簡単に作れる美味しくて、体に優しい薬膳レシピを紹介する番組で、素材の持つ力を引き出す追立式薬膳と、胃腸症状の改善効果のある電解水素水で家庭で作る料理は、少し特別な料理になる。5月2日はサンマ缶の薬膳麻婆豆腐、9日はマグロのステーキ 薬膳ソース、16日は追立流 担々つけ麺を紹介、23日は、ゆで豚の赤味噌ソースかけが放送予定で、公式ページ (<https://www.asahi.co.jp/korega-yakuzen/>) でもレシピが確認できる。



敏腕先物トレーラー

ハチロクの裏話

はわれるが、中国に切り札が少ない。大阪で開催されるG20（6月28

戻りを試す展開

米中貿易戦争一旦織り込む

先週の日経平均は平成から令和またぎの7日連続下落という展開であった。7日連続下落というのとは2016年の4月以来のこと。連続マイナス記録は過去10年で8日間（2009年7月1日〜13日）である。米中の貿易摩擦問題が深刻化、矢継ぎ早にトランプ氏が中国にプレッシャーを与えているので、投資家も積極的に動けないのが現状であろう。17日には中国通信機器最大手のファーウェイに事実上輸出禁止措置を發動するなど、貿易戦争ではなくもはや次世代の覇権争いに様相が変わってきている。

先週の日経平均（29日）では両国の首脳会談が想定されているが、それまでトランプ氏が納得する回答が得られるまで圧力は続けられるよう。相場は米中貿易戦争の長期化を一旦織り込んだようである。14日には安値（2万751円45銭）を付けたが、その後は2万1000円を割り込むと買いが入ってきているようだ。今回の4月24日〜5月14日の下げ幅は16万751円45銭（2万1051円70円処）、2万1051円70円処、14日の安値（2万1051円70円処）となる。

7月1日〜13日）である。米中の貿易摩擦問題が深刻化、矢継ぎ早にトランプ氏が中国にプレッシャーを与えているので、投資家も積極的に動けないのが現状であろう。17日には中国通信機器最大手のファーウェイに事実上輸出禁止措置を發動するなど、貿易戦争ではなくもはや次世代の覇権争いに様相が変わってきている。これに対し中国はレアメタルの輸出禁止や保有している米国債の売却など、なかなかしらの報復をとると思

（2万1875円11銭）があげられよう。24日の高値を起点とする上値抵抗ラインは2万1750円処であり、この抵抗線が目

日経225先物日足チャート



編集後記

証券専門紙OBと飲む機会があった。相場や当時の同僚、上司などの昔話に花が咲いたが、その時、最大の話題になったのはある相場の達人。筆者の知人であれど誰もいない。間接的ながらも誰々なことを教わったが、徹底していたのがナンピンをしないことだった。大化け銘柄を当てても一方で下げ続ける銘柄を持ち続けていては利益を帳消し、下手な押し目買いを入れようものなら、元本も大きく減らしてしまう。格言でいう「見切り千両」だが、これが最も難しい。

当面のスケジュール

- ・18日 トランプ米大統領が輸入自動車への追加関税を判断する期限
- ・20日 1-3月期GDP(8:50)
4月コンビニエンスストア売上高(16:00)
- ・21日 4月貿易統計(8:50)
4月訪日外客数
米4月中古住宅販売件数
- ・22日 4月貿易収支
FOMC議事要旨公表(4/30~5/1開催分)
- ・23日 ユーロ圏5月製造業PMI
欧州議会選挙(~26日)
米4月新築住宅販売件(23:00)
- ・24日 4月消費者物価指数(8:30)
月例経済報告(内閣府)
米4月耐久財受注(21:30)
- ・25日 トランプ米大統領来日(~28日)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。